

研究タイトル:

一地点の方言の包括的記述



| | | | |
|-----------------|---|---------|------------------------|
| 氏名: | 門屋飛央 / KADOYA Takateru | E-mail: | kadoya@fukui-nct.ac.jp |
| 職名: | 准教授 | 学位: | 博士(文学) |
| 所属学会・協会: | 日本語学会, 西日本国語国文学会, 九州方言研究会, 筑紫日本語研究会, 九州大学国語国文学会, 福井大学言語文化学会 | | |
| キーワード: | 日本語史, 九州方言, 五島列島方言 | | |
| 技術相談 提供可能技術: | <ul style="list-style-type: none"> 方言調査の実施 | | |

研究内容:

九州地方の西に位置する、五島列島方言の文法が専門です。五島列島のなかでも、宇久島の方言を中心に記述しています。下図の黒部分が宇久島(宇久町)です。方言というと、どうしても共通語と異なる部分に注目が集まります。同じ日本語でもこのように異なるのは、そこに方言独自の言語体系があるからです。その方言独自の言語体系を明らかにするために、共通語と異なる部分だけを記述するのではなく、その方言を包括的に記述することを行っています。



図 1 宇久町の位置



図 2 宇久平港

日本語の中央語は、江戸時代前期までは京都の言葉、江戸時代後期からは江戸・東京の言葉です。これまで日本語史の研究では、この中央語の歴史を中心に扱ってきました。しかし、日本語とは日本列島すべてで話されている言葉であるはずですが、方言を記述することで、中央語だけの通時的な視点だけでなく、通方言的な視点を持つことができます。その視点から、日本語史を重層的に考察しています。

また、日本語史研究と世界の言語研究は、互いに応用・検証しあう関係にあります。中央語には見られない言語現象が、方言にはみられるので、その記述は、世界の言語との対照にも役立つものになります。